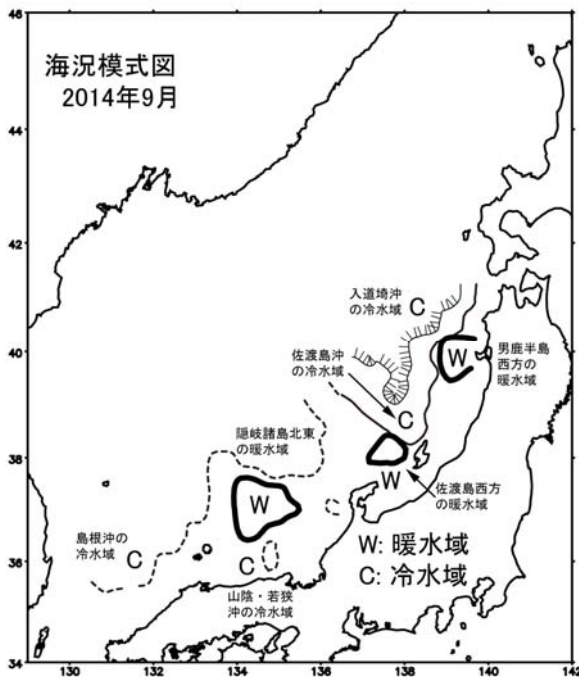


平成26年度 第3回 日本海海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(平成26年10月～12月)のポイント

- ・ 対馬暖流域の表面水温は、“平年並み”で経過する。
- ・ 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平年並み”で経過する。



2014年7月～9月の海況

- 隠岐諸島北東の暖水域は、ほぼ同じ位置に停滞する。
- 佐渡島西方の暖水域は、北東に移動して津軽半島西方に分布する。
- 男鹿半島西方の暖水域は、津軽海峡を通過して消滅する。
- 隠岐諸島北西に新たな暖水域が出現する。
- 佐渡島周辺～津軽半島の岸沿いの広域に新たな暖水域が発生する。
- 島根沖の冷水域の張り出しは、平年並み。
- 山陰・若狭沖、佐渡島沖、入道埼沖の冷水域の張り出しは、やや弱めで経過する。

問い合わせ先

独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部

担当：関根、檜山

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>

平成26年度 第3回 日本海海況予報

1. 今後の見通し（2014年10月～12月）

- (1) 隠岐諸島北東の暖水域は、ほぼ同じ位置に停滞する。佐渡島西方の暖水域は、北東に移動して津軽半島西方に分布する。男鹿半島西方の暖水域は、津軽海峡を通過して消滅する。隠岐諸島北西に新たな暖水域が出現する。佐渡島周辺～津軽半島の岸沿いの広域に新たな暖水域が発生する。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しは、平年並み。山陰・若狭沖、佐渡島沖、入道埼沖の冷水域の張り出しは、やや弱めで経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“平年並み”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平年並み”で経過する。

2. 経過（2014年6月～8月）

- (1) 6月に隠岐諸島北東にみられた暖水域は、形を変えながらも8月までほぼ同位置に停滞。6月に富山湾に見られた暖水域は、ゆっくり北上して8月には佐渡島南西に分布。6月に佐渡島～男鹿半島にみられた暖水域は、急速に弱体化して7月には佐渡島北方に分布し、8月には男鹿半島南西に移動。6月に津軽半島西方にみられた暖水域は、8月まで勢力を維持。8月に能登半島北西に小規模な暖水域が発生。
- (2) 島根沖の冷水域は、6月は規模・接岸状況ともに平年並み、7月は規模は平年並みでやや接岸、8月はやや大きくやや接岸。山陰・若狭沖の冷水域は、6月～8月を通して規模は平年並みでやや接岸。佐渡島沖の冷水域は、6月～8月を通して規模・接岸状況ともに平年並み。入道埼沖の冷水域は、6月は規模は平年並みでかなり離岸、7月は規模・接岸状況ともに平年並み、8月はやや小さくかなり離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温
6月は、隠岐諸島以西の山陰沿岸、能登半島西岸、佐渡島北西で“平年並み”、北海道西岸で“やや低め”～“かなり低め”以外は概ね“かなり高め”～“はなはだ高め”。7月は、隠岐諸島～丹後半島で“やや高め”以外は概ね“かなり高め”～“はなはだ高め”。8月は、能登～佐渡周辺、北海道北西域で“やや高め”～“かなり高め”以外は概ね“平年並み”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、6月は日本海西部・北部ともに“やや高め”。

3. 現況（2014年9月）

- (1) 暖水域は、隠岐諸島北東、佐渡島西方、男鹿半島西方に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、規模・接岸状況ともに平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、規模はかなり小さく接岸状況は平年並み。佐渡島沖の冷水域は、規模・接岸状況ともに平年並み。入道埼沖の冷水域は、規模は平年並みでやや離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、山陰沿岸、隠岐諸島周辺で“やや低め”、男鹿半島西方で“やや高め”以外は概ね“平年並み”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部・北部ともに“平年並み”。

(註) 引用符(“ ”)で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

- | | |
|--------------|--------------------------------|
| “はなはだ高め(低め)” | : 約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ(低さ) |
| “かなり高め(低め)” | : 約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ(低さ) |
| “やや高め(低め)” | : 約4年に1回の出現確率である1℃程度の高さ(低さ) |
| “平年並み” | : 約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温 |

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場	福井県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	京都府農林水産技術センター 海洋センター
秋田県水産振興センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
山形県水産試験場	鳥取県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	島根県水産技術センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	山口県水産研究センター
石川県水産総合センター	一般社団法人漁業情報サービスセンター (取りまとめ機関) 独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所